

普及活動情勢報告（令和3年8月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

次作に向けて～中央ししとう部会反省検討会～



就農への意気込みを話す
新規就農者

7月27日、南国地区中央ししとう部会の反省検討会が開催され、生産者16戸が参加しました。

J AからはIoPクラウドの取り組み、GAP、天敵温存ハウスについて報告しました。農業改良普及課は、今作の振り返りや次作から試験予定の非辛味シシトウについて情報提供を行いました。

生産者からは、「今作はチャノホコリダニが多かった」、「非辛味シシトウを学校食育につなげられれば面白い」といった声が聞かれました。

また、次作から就農する新規就農者2名からは「頑張っていきたいのでよろしくお願いいたします」との挨拶がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、新規就農者への営農支援や部会活動支援を行います。

来作もがんばろう！～香美地区ピーマン部会反省検討会・栽培講習会を開催～



生産者に対して講義をする
普及指導員

7月29日、香美地区ピーマン部会の反省検討会・栽培講習会が開催され、生産者19名が参加しました。農業改良普及課は、IoPクラウドの取り組みや来作実施予定のカイガラムシ類防除実証試験について説明しました。

生産者からは、「キルパー処理はハウスを蒸し込むことになるので機械類が心配」、「作中の対策はどうしたらいいか」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、ピーマンの安定生産のための支援を行います。

5年後の目標を立ててみよう ～物部柚子生産部会認定農業者合同申請会～



計画作成に向けて面談する
普及指導員

8月17日、J A高知県物部支所において、J A高知県と香美市役所が連携し、物部柚子生産部会を対象に認定農業者合同申請会を開催しました。

生産者10戸の農業経営改善計画を作成するにあたり、生産者が日頃、漠然と抱えている経営目標を明確化し、5年後の目標及び達成に向けた計画へと具体化する作業を支援しました。生産者からは「目標達成に向けて、少しずつ改善していきたい」、「紙に書いたことで目標がはっきりとした」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今回作成した目標が達成できるよう、引き続き関係機関と協力して支援していきます。

日焼け・カイガラムシを防げ ～温室小夏部会・温室金柑部会現地研修会～



日焼け対策について意見交換をする参加者

8月4日、JA香美地区果樹部温室小夏部会と温室金柑部会の現地研修会が開催され、それぞれ部会員5名と6名が参加しました。

両部会とも参加者の園地を巡回しながら、各園地の取り組みについて検討しました。農業改良普及課は、近年被害が増えている日焼け果及びカイガラムシ類防除対策の徹底を指導し、「日焼け果対策では遮光ネットの設置が化繊布の被覆よりも手間がかからないのでは?」、「確かにカイガラムシ類は夏以降も定期的な防除が必要だ」といった声があがり、各自の栽培管理にも活用することを確認しました。

農業改良普及課は、今後も高品質安定生産を実現できるように、関係機関と協力して支援していきます。

農業基礎講座を開催



植物生理について講義する普及指導員

7月28日及び8月10日、中央東農業振興センターにおいて農業基礎講座を開催しました。新規就農者など延べ14名が参加し、基本的な栽培管理、土壌肥料、植物生理、農業経営について学びました。

生産者からは「今、土壌消毒の準備中なので、丁度その話が聞けて良かった」、「曇天が続いたときは液肥の施用法を変更する方が良いのか」といった意見や質問がありました。

8月下旬には農薬の安全使用と共済制度に関する講座を予定しており、引き続き新規就農者の経営安定を支援していきます。

新規就農者の就農状況及び次作の経営計画の確認



ほ場の管理について指導する普及指導員

8月11日及び12日、農業改良普及課は関係機関と連携して、就農後概ね5年以内の新規就農者10名を対象に、就農状況の確認と今後の経営計画の聞き取りを行いました。

新規就農者からは「何でも自分だけでやれると思っていたが、次作からは、周囲の先輩農家等にいろいろ話を聞き、教えてもらいながら取り組みたい」といった心境の変化や、前作の反省からは場の排水対策、少量多回数かん水による施肥・かん水方法の改善など、具体的な次作の栽培計画について話を聞くことができました。

農業改良普及課では、新規就農者の1日も早い農業経営の安定に向けて、個別巡回による支援を続けていきます。